

●**孟宗竹と真竹と淡竹の見分けのポイント** 先週の週刊ニュースで見分ける方法を知りたいと呼びかけました。ベテランのニュース愛好者からお手紙をいただきました。最も太いものが孟宗竹、中間のものが真竹、比較的細いものが淡竹となり、節、一筋が孟宗竹で二筋が真竹と淡竹である。そして孟宗竹の葉は短い、真竹の葉は大きい、淡竹の葉は細かい、という見分け方をしているとありがたいお知らせを頂戴いたしました。読者のみなさんも竹の見分け方のご参考にして下さい。ニュースの読者のみなさんから早速このようなお手紙を頂戴したのは 800 号発行を目前にして、最初のお便りで、大変感激をさせていただきました。心よりお礼申し上げます。皆様からの反応がこのようなあるということは本当にありがたいもので、拙速な表現で、誤字脱字があるつたないニュースですが非常にうれしい出来事でした。ありがとうございました。

●**竹蛇籠の製作の急所** 今年で竹蛇籠を取り組んで 4 回目の製作になります。これまでの取組では一挙に 280 本の竹を割り切って、最終の 2 か月後になる材料の竹は乾燥して素材を曲げ細工が難しく、折れてしまうことが続いていました。もちろん竹の幅も広いものや細いもの様々な寸法の混在でした。製作する物も力まかせで苦労はつきものだと考えて勢いに任せて頑張ってきました。これ等の苦労から、改善することが必要で、誰でもが作りやすい方法を見つけ出さないと、とても普及や啓発は程遠くなり、手作りのいい川は生み出すことが出来ません。蛇籠づくりに経験のある皆さんのご発言は「あんなきつい仕事」をよく行なえるものだとお話になります。とても無理だとおっしゃいます。最初のころの 4 年前は、がむしゃらに元気に任せてやり切りました。もうこれっきりだから今年かぎりだという思いで完成させました。1 年が経過して、中聖牛の建設があり、前回に倍する 27 本の製作の話が持ち上がり、取り組むことになって、蛇籠の自力製作となりました。前回には再度の製作は無いものとの意識だったので、ほとんど覚えておらず弱りました。たった一回 1 日だけの経験者が集まって試作を繰り返し、学習を始めました。まさに青天の霹靂でした。竹藪での選び出しや切り出し、長さ合わせ、そして軽トラックによる 7m もの竹を作業場への運び込み、初経験の連続で、苦労に苦労を重ねました。教えていただいた竹割の小道具を製作し、7m を一挙に走り切るダッシュは非常にきつい作業でした。次に 7m に 20 箇所以上ある節の除去作業は重い鉄ハンマーを振り上げて一節ずつ叩き落すことは想像を超える相当な厳しい作業でした。一本に 20 か所以上ある竹の節 1000 か所を一発命中なら 2 万回、それほどうまく命中しないので少なくとも合計 3 万回以上の大きくて重い鉄ハンマーの振り下ろしはつらい作業でした。これらの事前準備が整って蛇籠を編み始めることになります。これ等の作業の連続は高齢者にとって不可能な作業です。2 年目には改善が求められましたので、竹割機の製作、4 年目の今年は竹幅精製機の製作で均一素材の製作、そして柔らかく扱いやすくするためのヒビ入れ機を製作して、均一で扱いやすい材料を準備できるようにやっと 4 年目の今年になりました。今年一度に多量の竹割方式から、その日に使用する分の竹の精製を行えば済むことになりました。何よりも新鮮で曲げやすいものを使うことになるので、細工が行いやすく、力まかせの作業が大きく改善されました。少し経験していただければ、どなたでも製作することが出来るようになりました。理屈で理解しても長い竹を組み合せするものですから素直に作りあげて行くことには、苦労が伴います。先日来てくれた田辺高校生の 3 人は呑み込めれば出来ると 1 時間程度で完成させてくれました。是非多くの皆さんが体験を重ねていただけることを期待しています。

●**竹蛇籠の製作 10 月 1 日現在 9.5 本が完成。**残るは 18,5 本 里山の会では 9 月 15 日を初回として蛇籠の製作講習会を取り組んできました。7 日間 7 回を実行して、延べ 30 人にお越しいただきました。全長 4m の竹蛇籠を製作するのですが、前部分と後部分に分けて 2,5m の蛇籠を 18 本作りあげました。54 本（27 本の完成品）を目標としていますので残り 36 本になり、10 月中に全

目標を作り上げようと計画しています。なるべく多くの皆さんがご参加いただき「いい川作り」、に生かして、生き物が住み続けられる川、多様な生物に優しい川作りに役立てていただきたいと考えております。現在では竹蛇籠の製作に取り組んでいるのは、全国では数少なく、やましろ里山の会だけではないかとも聞き及んでいます。貴重な体験の場であります。この際にご参加ください。お越しをお待ちしています。参加料無料です

●夏原グラント ステップアップ事業へ取組申請準備を本格的に実施 早急に3年間の成果をまとめ課題(目標)の見つけ出しの資料作成を播川・大村さんに依頼、実行してきた取り組みの拾い出しはあまり難しいものではなく案外早く抽出できると思われます。問題は各事業の目的の設定が出来ていれば到達度や課題を判断することに苦労することはないと思います。物事の最初に計画と見通しを持たないと到達点が判定できません。3年間にわたって助成金をいただいて成し得たこと、まだ不十分な点などを正確に整理して、次の目標に向かわなければなりません。いま里山農園の抱えている課題は、一般的に指摘されている高齢化や後継者問題、そして若手の参加を進める課題が共通とされております。また農園なので栽培と同時に生育や収量などの実績比較表などの一覧表を整えて、新たな課題の発見を行い、さらに発展できる道を見なければなりません。大村、播川さんの努力にかかっていると思います、

●竹蛇籠シンポの準備進む 里山の会の年間取組で、結成25周年を前にしての竹蛇籠・中聖牛緒取組を行って4年が経過しての、中間報告シンポジウムは、今年最大の取組です。結成以来死守して継続してきた秋に開催してきた里山講演会の24回目と兼ねて実行いたします。2016年に木津川15.5kの両岸に設置した7mにも及ぶ巨大な竹蛇籠の設置は目を見張るものでした。一級河川に魚の棲み処を作る目的で木津川出張所が構造物の設置を承認されたからです。これまで一木一草の持ち込みや持ち出しが禁止されているところで認証いただき実現できたものです。それ以後中聖牛が6基設置され、今年は3基の追加、来年は更に3基の設置が予定されています。中聖牛の設置群が完成します。画期的な取り組みとなります。

そして木津川における土砂移動や地形変動の調査がされ、中聖牛の成果が実証されれば、具体的な取り組みとして全国に普及していくと考えられます。こうした立場から4年間の実績を広くお伝えできればと中間報告シンポジウムを準備しています。出来るだけ多くの皆さんのご参加をお願いいたします。本日里山の会全員にはがきでのご案内を郵送しました。万難を排してご参加をお願いします。

竹蛇籠・中聖牛を取り組んで4年 取組の中間報告シンポジウム

10月12日(土)

第1部 9:30 中聖牛 竹蛇籠の現地説明会

場所 玉水大橋東詰め広場と玉水浜 岨奈良線 玉水駅西へ徒歩10分

第2部 13:30 中間報告シンポジウム

場所 京田辺市社会福祉センター 田辺中央郵便局裏

挨拶 国土交通省淀川河川事務所

報告 田住真史 国交省中国地方整備局職員

報告 福井波恵 里山の会社員 河川アドバイザー

講演 竹門康弘 京都大学准教授

「伝統河川工法による河床地形管理」

講演 角 哲也 京都大学教授

「木津川における土砂管理の課題と解決策」

第3部 16:30 交流懇親会 サンサン山城

18:00 終了解散

今回のシンポジウムは第24回里山講演会とかねての取組としております。1カ月遅れの開催ですが、万障繰り合わせてご参集をお願いいたします。

主催 NPO やましろ里山の会 0774-64-4183